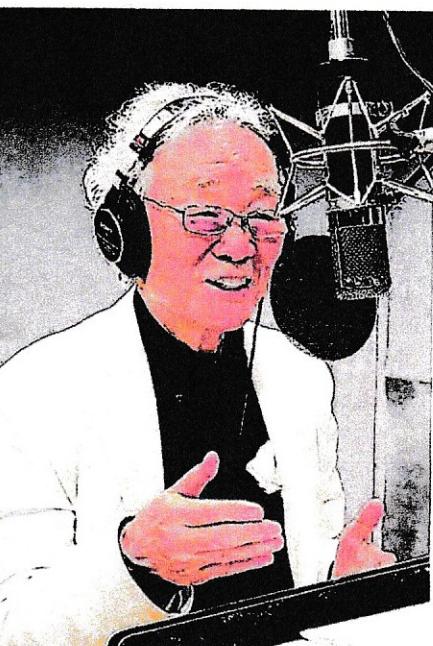


わが心の自叙伝

吉原洋一

▶25

アルバム『80歳シリーズ、レコーディング時一枚



イ・ウェイ」にのせた。60年の長きに渡つて歌つてきた感謝をそこに込めたのだつた。発売直後にうれしい報せが届いた。ひとつは出身地であり私の隣となつた故郷の加古川の観光大使に任命されたことである。顕彰真付きの観光大使の名刺を手にしながら加古川は日本の中でも一番穏やかで言葉も優しい場所だと再認識した。

加古川弁を聞くとほつとすると自分がいることにあらためて気づいた。さらに「第60回日本レコード大賞」では企画賞をいただいた。

童謡第一号曲の「かなりや」、そしてふるさとの播州平野の中で生まれたとされる「赤どんぼ」を歌つた。作詞した三木露風は人でアルバムを作ろう。中でも今までの私のカバーにはなかつた河島英五の「酒と泪」と男と女は好評でテレビでも何度か歌わせてもらつた。この吹き込み中に同じ年齢で長くジョインして旅から旅、コンサートにてテレビ出演と一家にいる時間がほとんどなかつた。時たま家から仕事に出るとまた遊びに来てね」とは、「歌い続けて60年」ふたり返ればピューティフルメモリ」というタイトルでの発売だ。ア」を歌つたのもこの盤だ。

「84才」のアルバムは童謡「84才」の意味合いから生まれたと…の観点から2年齡的な年だつたから特別賞かと思つていたら、なんとアルバムを対象にした企画賞受賞で、驚きながらも喜んだ。この賞と一緒に受けたのがJHJヒヤスキマスイツチ、島津圭矢など若い現役ばかりだつたことも、私を大いに励ましてくれたのだつた。

孫の童謡を18歳で「こでした。
「おじいちゃん、僕の分まで元氣に歌つてね」と言い残された気がした。

私は残りの人生をやはり歌で表現していきたいと思い、80代になってからスタートさせたアルバムを続けて発売することにした。

童謡を「こでした翌年に出した「81才の私からあなたへ」では孫の病床で歌つた「花は咲く」を歌い、「82才の私からあなたへ」では父が好きだった「椰子の実」を歌つた。「83才」のときのアルバムは息子の英介とともに「息子と歌う思い出の歌」と題し発売した。

ここ数年、息子と一緒にステージに上がることが多い。よくお客さまから「声やしぐさがそっくりですね」と言われ、自分たちのほうがびっくりしたものだ。

歌い続ける

80代、アルバムを毎年発表

考えてみれば英介誕生の年に私は「今日でお別れ」でレコード大賞を受けたが何しろ忙しくて旅から旅、コンサートにてテレビ出演と一家にいる時間がほとんどなかつた。時たま家から仕事に出るとまた遊びに来てね」とは、「歌い続けて60年」ふたり返ればピューティフルメモリ」というタイトルでの発売だ。ア」を歌つたのもこの盤だ。

誕生100年の意味合いから「大人のための子守唄」とし、

（すがわら・よしこ）歌手